

第2分科会

子育てトークII

学校教育

助言者 関根 幸子 (東北小学校教員)
野村 礼子 (新座第5中学校教員)

司 会 斉藤 規容子

記 録 清野 信江
高野 真奈美



参加者紹介計 10名

学童の指導員	小1の母親
教員 2名	小4、小1の母親
小学二年生の祖母	都立特別支援学級の教員
元養護学校教員	小2の母親
中1、小2の母親	

話し合い

(司会) 学校の現場、子どもたちは今どんな様子なのか教えてください。

(A) 放射能について学校給食に不安を持っている。教育委員会や学校長は安全というばかり。お弁当、水筒持参、牛乳拒否の選択肢を公表してほしい。

(B) 子育て中は過敏になりやすい。ボランティアに行き、そこで出されたお茶よりもペットボトルを飲む人がいる。わだかまりができる。新座の先生から放射能の話をしていてもいいのでは？

(C) 放射能測定も校庭の真ん中とかで、数値として信用しにくい。

(関根) 安全だとは思っていない。数字ではよく分からない。

(D) 雨どいの下など危険なところの声かけなど先生のほうでもお願いしたい。

(関根) 大震災はたくさん語られたが原発事故についてはあまり語られていない。震災は自然災害だが原発は人災である。

(A) 子どもたちに放射能についてちゃんとした教育をして

ほしい。

(B) 原発問題は授業に出てこないし、できていない。

(司会) 100%大丈夫とはいえないなかでどう教育していくか。先生はなにを伝えていくか。

(関根) 大丈夫とは言い切れない中で運動会も開催されたのでは・・・？

(A) 市は数値がある基準を超えなければ野外活動をしてもらいとしているが、その数値があきらかにされていない。

(B) 光化学スモッグ発令のような警報があるとよいのでは。

(D) 学校や公園の土を削るだけでもしてほしいと思う。ここは安全だから遊ぼうねといえる教育をしてほしい。

(司会) 安心できる人とできない人の温度差がある。その基準値を市が責任を持って公表してほしいですね。

(司会) ほかに悩み事は？

(E) 1年生で毎日5時間授業。学校、学童、やっとな家、で疲れている。ご飯を食べずに寝てしまうことも。時間に余裕がなく不安に思う。

学童の誕生日会が4時からと聞いて驚いた。4年生が6時間授業。昔はクラブや委員会だったのに。6時間授業になると学童はどんどん4年生が減っていく。

(関根) 学童は市によってぜんぜん違う。所沢は6年生までだが、やめる子が多い。保育園では3学期ぐらいになるとお昼寝はしないようにしており、小学校に入ってしばらくは大変だが体

力がついてきたりすると慣れてくる。

(B) 新座市は学童が社協管轄になったときは3年生までだったが、4年生までに要望を出した。現在4年生まで。

(F) ベネッセコーポレーションという企業が教育に大きく関わっている。

また和光の小中学校、幼稚園で自由な学校がある。保護者も一緒に泥んこになったりする。子どもは自然に育てるのがいいわねと共感していたのに5歳児になるとガラッと変わり、教育の話が多くなり親もびくびくしている。国がそういう政策を取っているから皆が大変な思いをする。入学してからすぐ5時間授業は大変。

(A) 毎日宿題のプリントが出るのはなぜ？毎日出さなければならぬもの？

(関根) 出さなければならぬものではない。学校からも出しなさいとは言われていない。先生によるもの。

(G) 早期教育を考える親が多いが、入学前にひらがななどを勉強してくる子は既に癖がついているから教えづらい。書き準や鉛筆の持ち方などが直らない。

(H) 先生の仕事もほんらいの仕事以外に対外的に見せることの準備で忙しくなっていて大変な時代。

(野村) 中学校はそんなに宿題は出ない。中間期末テストがあるのでそのテスト範囲を教えても自分で勉強できない子などがいる。小学校で抱えている問題が中学校に影響していることが分かった。小さい頃の五感は大事。話が聞ける子、聞けない子、いろいろな子がいて親もそれぞれ。みんな違う。でもみんなで分かり合って子どもの学校生活を楽しませてあげてほしい。

(I) この時点でこのレベルができていなければ・・・とかでゆとりがない。子どもが受身になりやすい環境がある。本来は自分から勉強したり、友達と遊んだり子どもからやりたいなど思うようなシステムをみんなで協力して作っていったらいいなと思う。

市への要望事項

1. 放射能に対する影響について子どもたちに正しく教育してください。
2. 子どもたちの外での活動における新座市独自の安全基準を設定してください。
3. 30人学級の実現を強く希望します。
4. 子どもにも教員にもゆとりを持った教育システムを構築してください。
5. 学童保育室にも適正規模になるよう対策を打ってください。

申し合わせ事項

子どもを中心に親、教師、学童もつながりを持って、今後こういう機会を大事にしていきましょう。